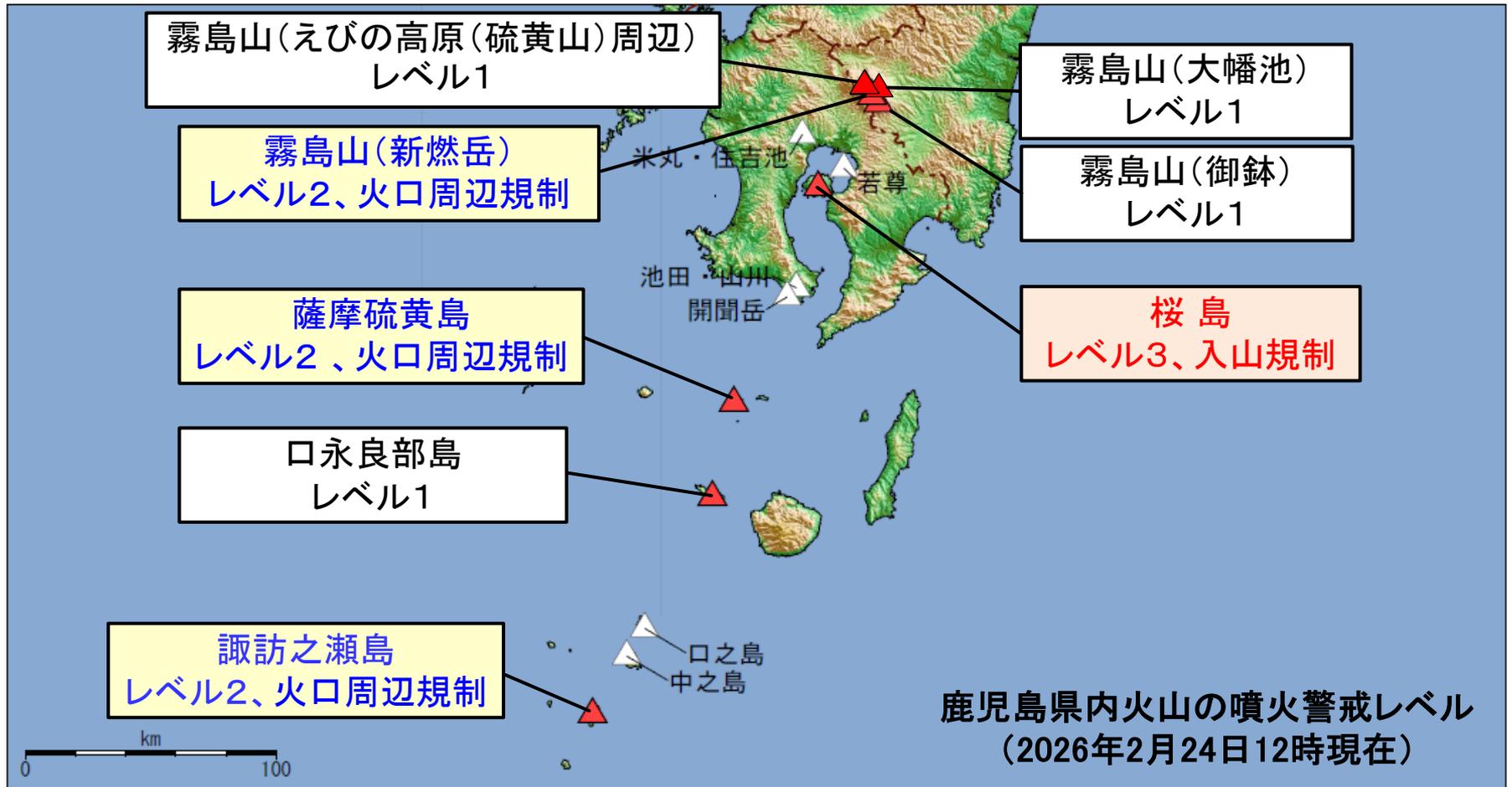


鹿児島県の火山活動概況

2026年1月～2月19日

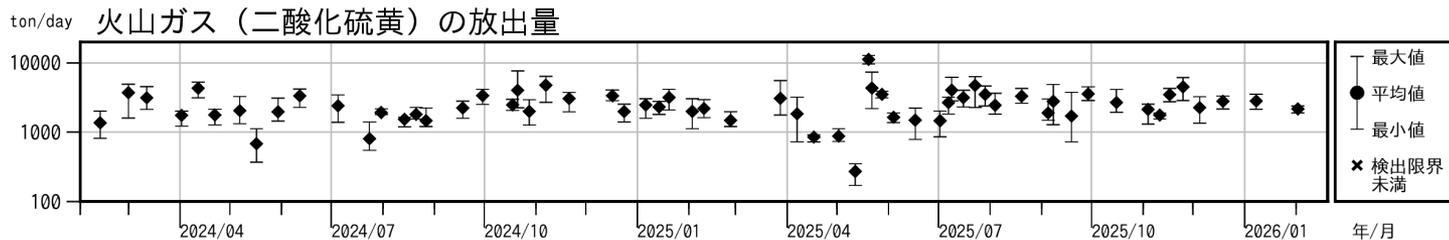
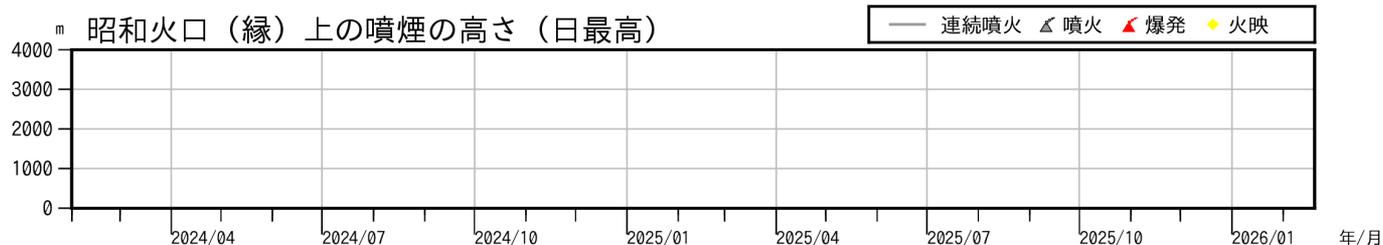
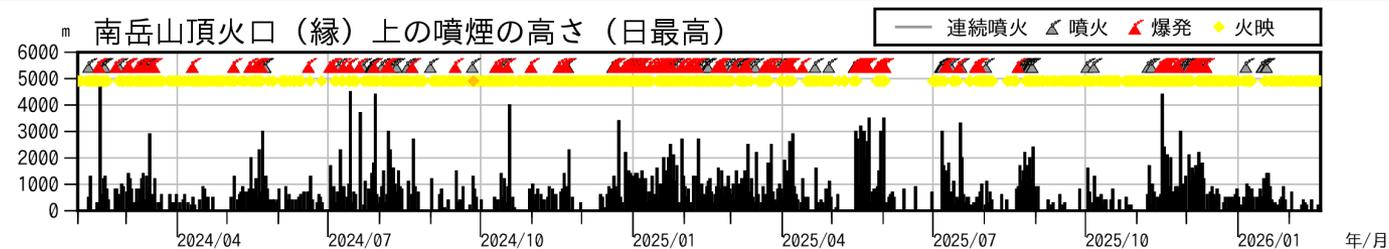


桜島 噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

1月以降の主な状況

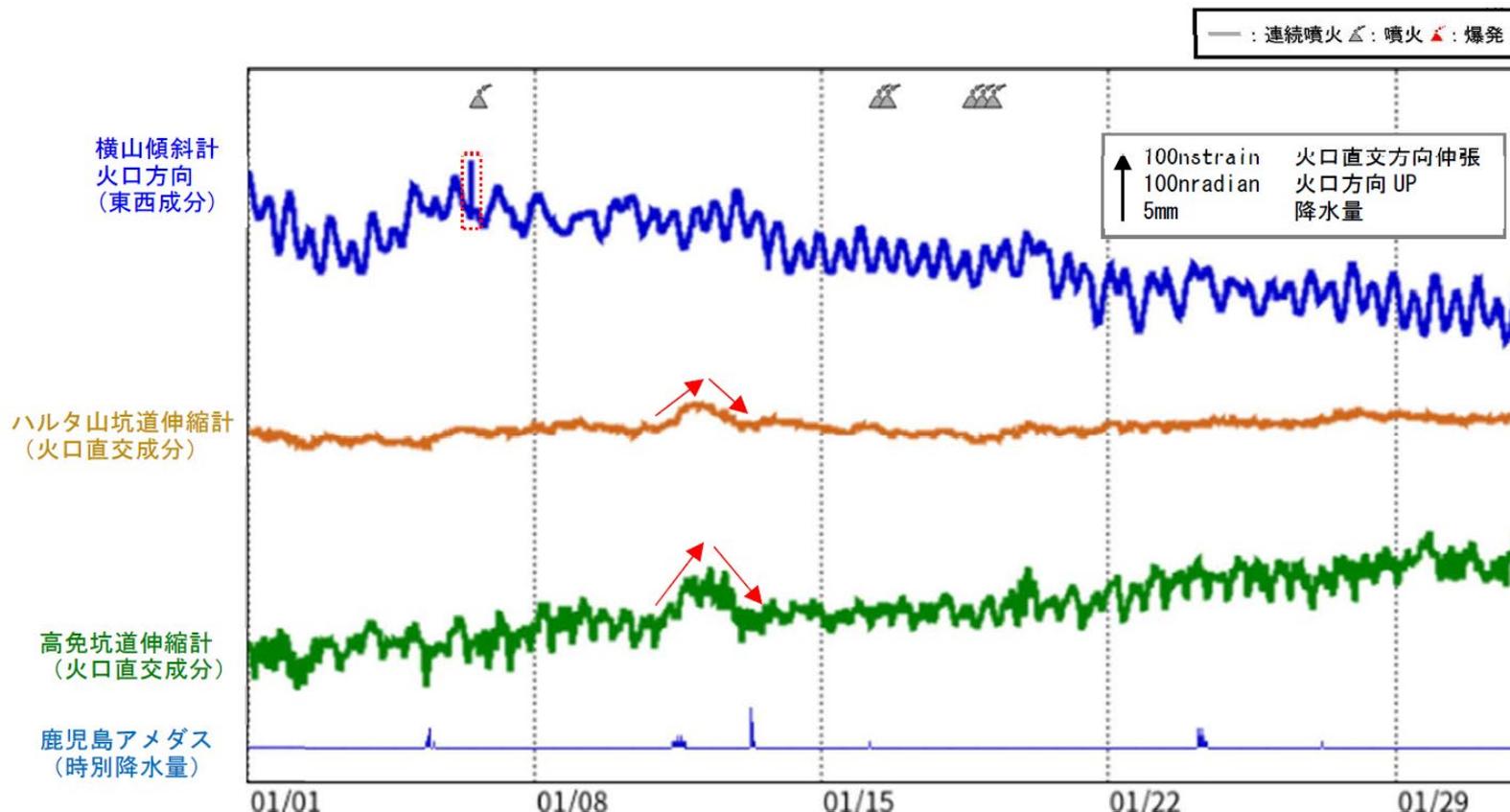
活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	<p>[南岳山頂火口]</p> <p>噴火回数 2月(19日まで): 0回(うち爆発: 0回) 1月: 噴火6回(うち爆発: 0回)</p> <p>1月18日22時41分の噴火: 噴煙は火口縁上1400mまで上がり雲入り</p> <p>[昭和火口]（ごく小規模含め）噴火は発生せず</p>
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均2200~2800トンと多い状態



桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年2月~2026年2月19日)

1月以降の主な状況

傾斜・伸縮 桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、1月11日から12日にかけて山体膨張（隆起）と収縮（沈降）が観測された。



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2026年1月1日～1月31日)

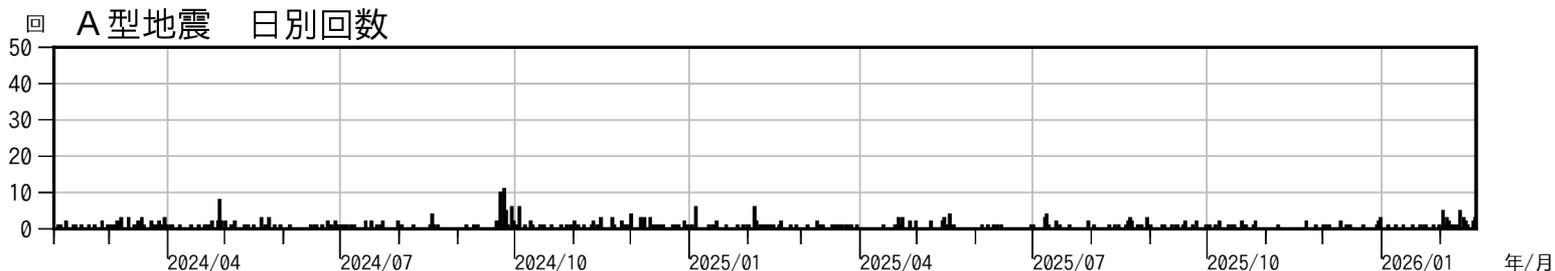
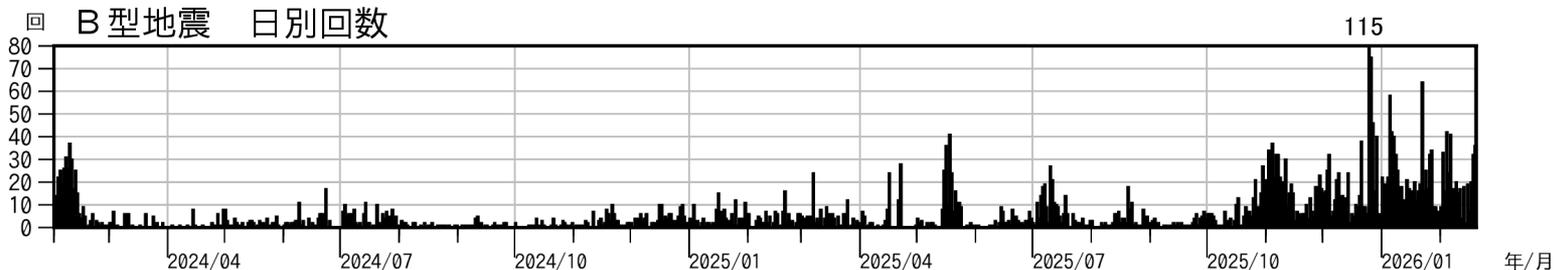
- ※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。
- ※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道と高免坑道の観測データを使用している。
- ※赤破線内の変化は遠地地震の影響によるものと考えられる。

桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

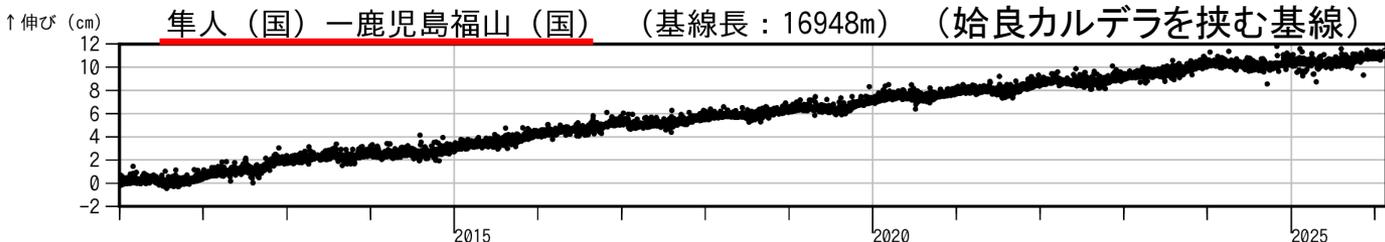
警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

1月以降の主な状況

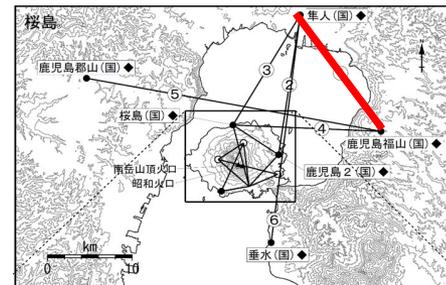
震動現象	火山性地震は1月5日と22日に一時的にやや多い状態となったが、その他は概ね少ない状態で経過
GNSS	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年2月~2026年2月19日)



桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月~2026年2月19日)

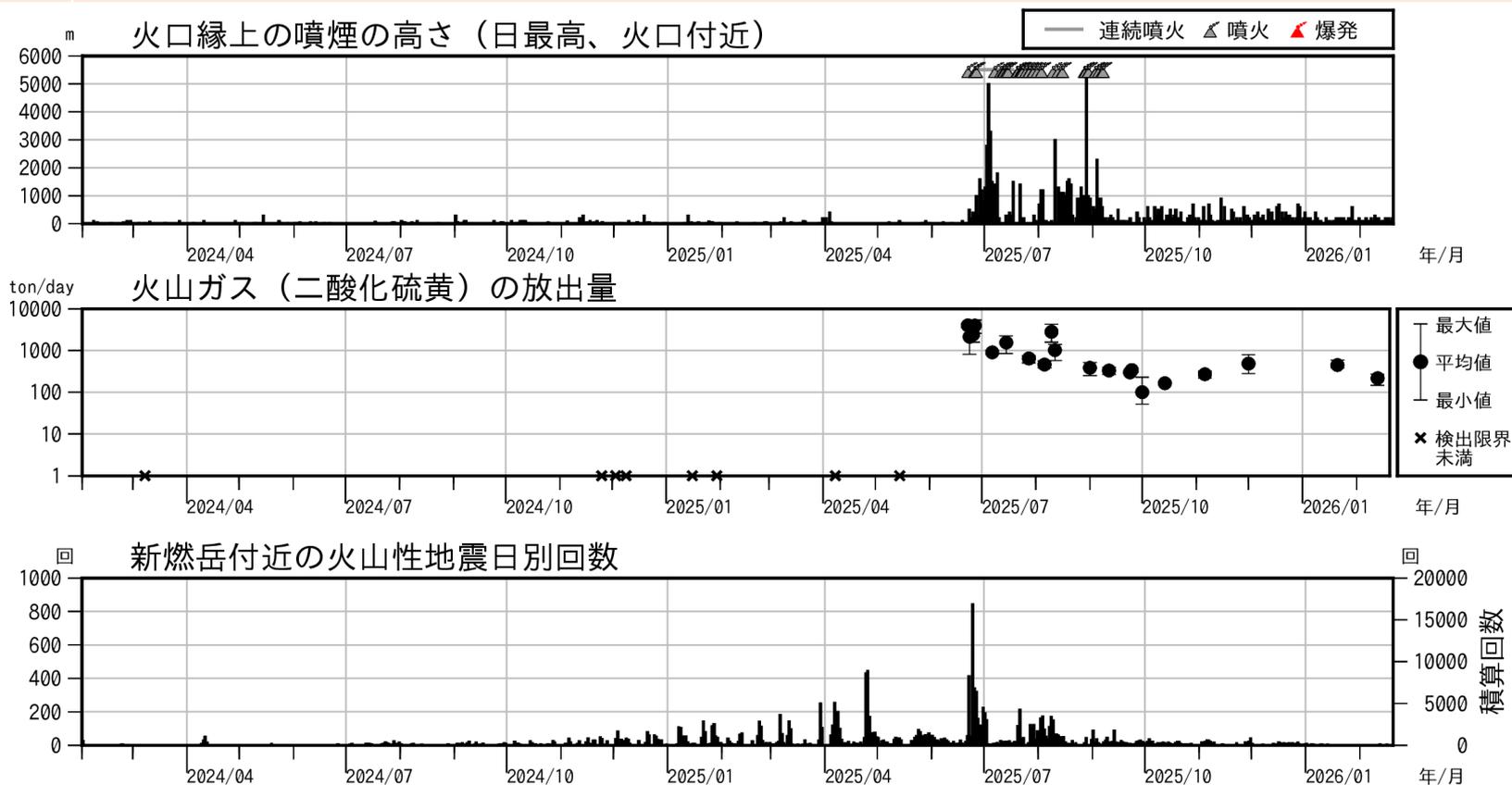


新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

1月以降の主な状況

活動評価	火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しており、火山活動は高まった状態。
噴火活動	2025年9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均200~400トンで経過。
震動現象	2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。今期間は概ね少ない状態で経過。



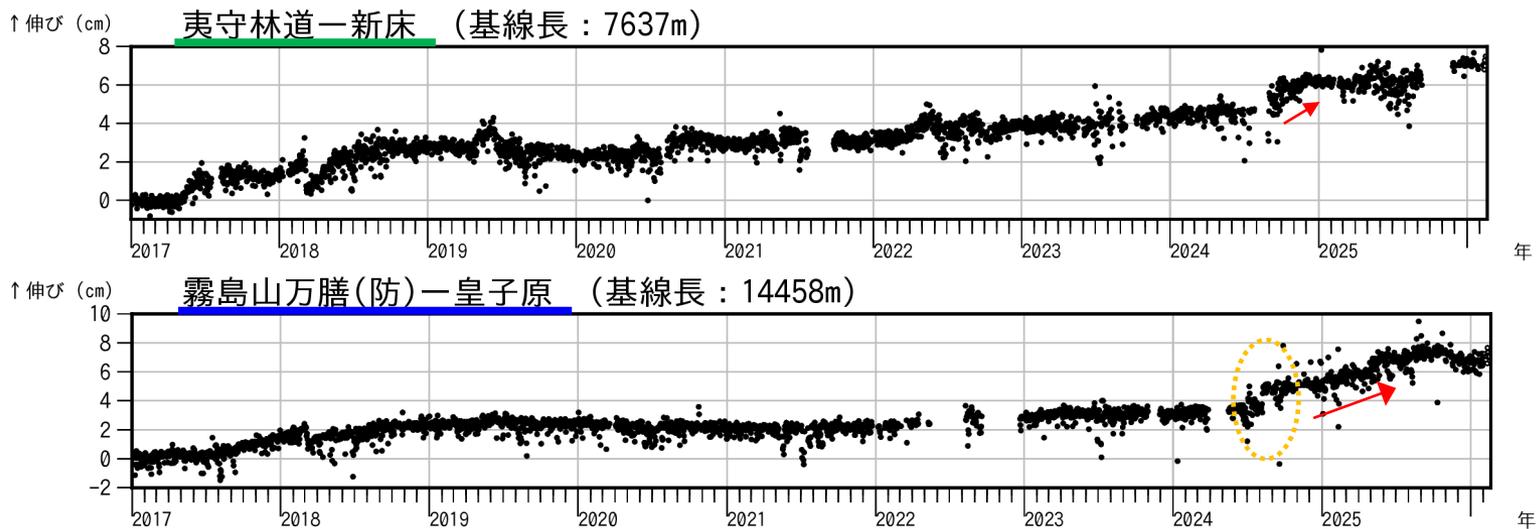
新燃岳 火山活動経過図(2024年2月~2026年2月19日)

新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

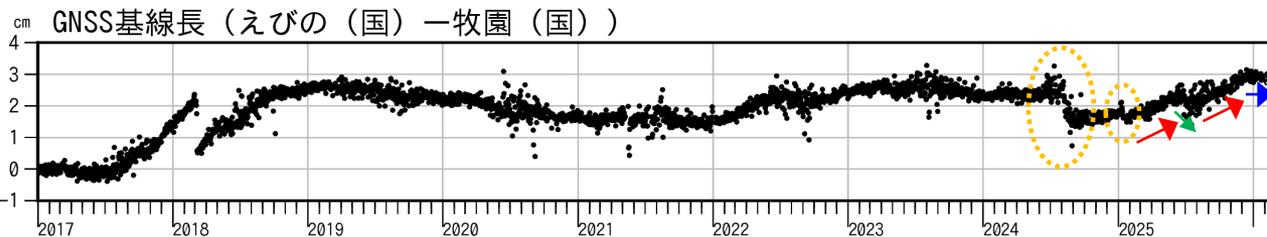
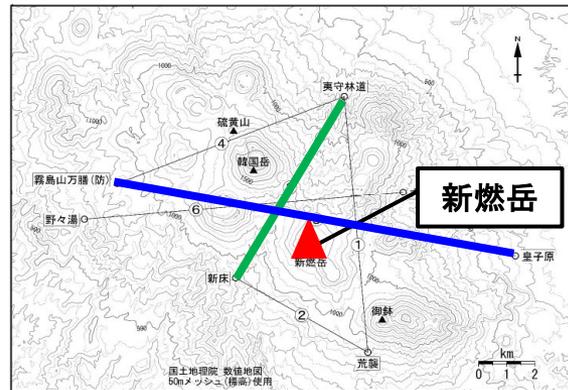
1月以降の主な状況

GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、2025年12月中旬頃からは停滞。同基線では2025年7月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた(緑矢印)。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年7月以降は認められない。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年2月19日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年2月19日)

※橙色の破線は2024年8月8日、2025年1月13日の日向灘の地震による変動を示す